つなぐ

長野県のヒト・コト・モノと
あなたを“つなぐ”情報マガジン

vol. 94 2023.8 令和5年7月15日発行
TAKE FREE
しあわせ信州

その1 一遍上人が創始した「踊り念仏」を受け継ぐ

その2 南信州の暮らしに根付く神仏融合の風流踊

特集 踊らまいか! 信州の風流踊

御朱印を集めて豪華景品が当たる!

黄金KAIDO 新川 葵の御紋巡礼の旅 キャンペーン

夏の陣 2023年7月1日(土)～10月31日(火)
冬の陣 2023年12月1日(金)～2024年2月29日(木)

デジタルスタンプラリー開催中

黄金KAIDO※周辺の徳川ゆかりの指定スポットを巡り、8か所以上の御朱印、御城印、御船印、御山印等とデジタルスタンプを集めると、抽選で豪華景品が当たるキャンペーンを開催中です。

※徳川家康公や武田信玄公が開発に力を注いだ金山が新潟、長野、山梨、静岡の各県にあり、これらを結ぶ陸路と海路のルートのこと。

問合せ 黄金KAIDO事務局 tel.050-5371-0324

詳しくはこちら

金賞 夏の陣・冬の陣の指定スポット24箇所の御朱印を集めて応募しよう!
葵の御紋入り 黄金KAIDO 特別限定仕様小判
黄金小判 抽選で20名様 を進呈!

銀賞 指定スポットのうち8箇所の御朱印を集めて応募しよう!
10,000円分旅行券 抽選で30名様 を進呈!

※画像はイメージです。

キャンペーン応援企画

期間中の交通費がリーズナブルに!

中央日本四県（新潟県、長野県、山梨県、静岡県）内の高速道路の運賃を割り引くドライブプランや、長野県内の高速道路が連続する2～3日間定額料金で乗り放題となる「信州めぐりフリーパス」などお得にめぐっていただけます。

信州めぐりフリーパス　中央日本四県周遊プラン

※本事業は中央日本四県（新潟県、長野県、山梨県、静岡県）が連携して、広域での観光誘客に取り組むものです。

長野県最大級の移住フェア

信州で暮らす、働くフェア

日　時　7月22日(土) 11:00～17:00(最終入場16:00)
会　場　東京交通会館12階
ダイヤモンドホール・カトレアサロンA
(東京都千代田区有楽町2-10-1)

県内市町村や企業等と直接相談できる長野県最大級の移住フェアを東京（有楽町）で開催します。魅力あふれる43市町村と50を超える企業・団体の個別相談ブースや、先輩移住者のトークライブなど、長野県の暮らしと仕事を分かりやすくご紹介します!どなたでもお気軽にお越しください。

詳しくはこちら

問合せ　長野県信州暮らし推進課（TEL.026-235-7024）

信州で挑戦したい人を応援する対話型イベント

「ふるさとLAB」開催中

日　時　毎月1回 17:00～18:15
・8月13日　・9月10日　・10月8日　・11月19日
・12月17日　・1月21日　・2月18日
会　場　銀座NAGANO5階+Web配信

地域で何か始めたい・挑戦したい・既に始めている人々が、「プチ相談」を持ち込み、参加者とアイディアを出し合う対話型イベント「ふるさとLAB」を月に1回開催しています。地域で挑戦したい思いを持つ方や、都市部の方の意見を聞いてみたい長野県民など、奮ってご参加ください。

詳しくはこちら

問合せ　長野県信州暮らし推進課（TEL.026-235-7024）

長野県産品コラム

vol.7 Peach 桃

長野県の果物というと、りんごを想い浮かべる方も多いと思いますが、夏を代表する果物「桃」の生産量も実は全国3位。主な品種では7月末の「あかつき」から9月上旬の「黄金桃」まで、収穫・出荷が続きます。

長野県における桃栽培の歴史は古く、明治23年、加工用桃の栽培に始まり、現在では県内各地へと広がりました。中でも生産が盛んなのが長野県北部の長野地域。千曲川や犀川流域の水はけのよい土壌や、盆地ならではの昼夜の寒暖差が甘みのぎゅっとつまったおいしい桃を育みます。

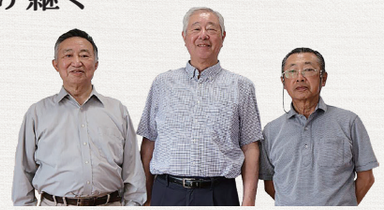
また、全国での栽培面積第2位を誇る「川中島白桃」や、桃とネクタリンのかけ合わせから生まれたカリッとした歯ごたえが特徴の「ワッサー」など、多くの品種が長野地域で誕生しています。さらに、県果樹試験場で「川中島白桃」と「あかつき」をかけあわせ誕生した県オリジナル品種「なつっこ」は、大玉でしっかりした果肉と、穏やかな酸味、上品な甘さなど、親品種のよさをしっかり受け継ぎ、他県でも盛んに栽培されるなど人気上昇中です。

ご自宅で冷やしていただく桃もおいしいですが、桃が生れ育った長野にお越しいただき、旬の採れたてを頬張るのも一興ですよ。

【お話を伺った方】
長野県園芸畜産課課長補佐兼果樹・花き係長
三井 光さん

＼こちらもチェック!／
おいしい信州ふーどネット

一遍上人が創始した「踊り念仏」を受け継ぐ



跡部踊り念仏保存会
会長 伴野 則行さん（中央）
顧問 北村 東巳さん（左）
顧問 廣 岡　豊さん（右）

踊りながら太鼓や鉦（かね）を打ち鳴らし、念仏を唱える「踊り念仏」。時宗の開祖、一遍上人が鎌倉時代に全国を遊行して民衆に広めたとされ、盆踊りのルーツともいわれる民俗芸能です。その流れをくむとされるのが、佐久市跡部で継承されている「跡部の踊り念仏」。弘安2（1279）年の冬、善光寺参詣の帰路に伯父の墓参のために現在の佐久市に立ち寄った一遍上人が、この地で念仏供養を行ったところ、人々の心が澄んで信心が湧き起こり、自然と念仏を唱えながら踊り出したことが始まりと伝わります。踊りながら念仏を唱えて恍惚無我の境地に入り、極楽往生を願う踊り念仏は、封建制度のもと抑圧されていた庶民に広く受け入れられ、その後も佐久地方で広がりました。定期市である「伴野の市庭」（佐久市跡部）が踊りの場となったことから、この地が中心になっていったと考えられています。娯楽への統制が厳しかった江戸時代でも踊り念仏の伝統行事は許され、旧暦の正月や2月に5日間行われていた「跡部の踊り念仏」には近隣の79の村から参加があるほどにぎわったことが当時の記録に残されています。

鎌倉時代からの貴重な原型を今に伝えるのが「跡部踊り念仏保存会」です。第二次世界大戦中に中断してしまった踊り念仏を復活させようと呼びかけた公民館活動が発端の保存会で、復活公演は区民の総意により、昭和27（1952）年、地区の寺院「西方寺」で行われました。農繁期前の4月に復活したことから、現在は毎年4月第1日曜に同寺の本堂で行われています。復活の背景には、文化継承の使命に加え「終戦後の娯楽が少なかった時代、人々が踊る楽しみやコミュニケーションの場を求めていたことが強かった」と話すのは、現会長の伴野則行さん。時代は変わり、遊びが多様化した現代は後継者の確保や育成が課題。保存会では平成19（2007）年から、地域の小中学生を対象に踊り念仏を伝える体験学習活動を続けています。今回、世界に認められたことは継承活動のひとつの後押しになったそうで、「踊り手からは『いっそうやりがいを感じ、仲間も誘いやすくなった』との声が挙がっています」と話すのは顧問の北村東巳さん。一遍上人が創始した歴史的価値と、その文化を今に伝える人々の情熱が国際的に認められたことは、後世につないでいく上で地域の大きな励みになっています。

跡部踊り念仏保存会
佐久市跡部424（西方寺）
☎0267-63-5321（佐久市教育委員会）

詳しいストーリーはウェブへ

1 浄土に見立てた道場（舞台）を組み、中央の2基の太鼓の周りを8人の踊り手が輪になって「南無阿弥陀仏」と唱えた後、太鼓と鉦に合わせて踊ります。次第にテンポが速まり、踊りながら法悦の境地に至ります。**2**「跡部の踊り念仏」発祥の地近くにたつ「西方寺」。毎年4月に本堂で定例会が行われる。**3** 重要文化財『紙本著色一遍上人絵伝　巻第二（金台寺本）』に描かれている佐久郡伴野荘の「伴野館」での踊り念仏の様子（東京国立博物館に寄託中）。**4** 定例会で行われる子ども踊り念仏の練習の様子。**5** 今年2月には「第1回南信州民俗芸能フェスティバル」で3芸能が初集合した公演を開催。

「風流踊（ふりゅうおどり）」とユネスコ無形文化遺産

夏の風物詩として親しまれている盆踊りをはじめ、太鼓踊や小歌踊など、先祖 供養や豊作などを願って各地の風土に応じ継承されてきた民俗芸能「風流踊」。2022年11月、長野県佐久市の「跡部の踊り念仏」と阿南町の「新野の盆 踊」「和合の念仏踊」を含む全国41件の「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。今年7月10日には文部科学省で登録記念式典が開催され、その魅力が改めて注目されています。

南信州の暮らしに根付く神仏融合の風流踊

新野高原盆踊りの会
会長 林 弥寿雄さん（左）

和合念仏踊保存会・
南信州民俗芸能継承推進協議会
会長 平松三武さん（右）

「民俗芸能の宝庫」といわれる南信州。関東と関西を結ぶ街道を通じて伝わった多様な祭りが各地に息づいています。中でも長野県南端に位置する阿南町は、山間部ゆえの素朴な生活に根付く独特の祭りが受け継がれてきた地。この小さな町でお盆の時期に行われるふたつの異なる風流踊が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

「新野の盆踊」は、町内最南端の新野地区で500年以上続く、盆踊りの原型のひとつといわれる静かな踊り。8月14～16日の夜9時から翌朝6時頃まで、住民たちが毎晩6種類の踊りを夜通し踊って精霊を供養し、最後の日の明け方には「踊り神送り」の神事が行われます。楽器を一切使わず、音頭は櫓（やぐら）の上にいる音頭取りの「音頭出し」と、櫓の周りの踊り手たちの「返し」の声だけ。「この踊りと唄は子どもの頃から子守唄のように聞いて育ち、自然と体に馴染んでいます」と話すのは、音頭取りを務める「新野高原盆踊りの会」会長の林弥寿雄さんです。踊りの動作はどれもゆっくりで覚えやすく、誰でも自由に踊りの輪に加わることができます。「『新野の盆踊』は見て楽しむものでなく、実際に踊ることで楽しさがわかります。ぜひ多くの方にここに来て参加してほしい」と林さんは語ります。

一方、町内で最も深山幽谷の地に位置する和合地区の「和合の念仏踊」は、厳かな踊りが次第に激しさを増し、太鼓や鉦、笛のリズムに乗って、裸足のヒッチキ（2人1組の踊り手）がダイナミックに飛び跳ね躍動するのが特徴。8月13～16日に新仏供養や豊作を願って行われます。地域の人たちにとっては1年で一番楽しい行事だったとされ、その伝統は現在、若い移住者が力強い担い手となっています。というのも、和合地区の小学校は親子山村留学が盛んで、念仏踊の参加を目的に移住する家族もいるのだとか。近年は、その若手の活気はさらに高まっていると「和合念仏踊保存会」兼「南信州民俗芸能継承推進協議会」会長の平松三武さんは話します。

しかし、祭りの後継者不足は、南信州全体を眺めると、コロナ禍でより深刻に。そこで「南信州民俗芸能継承推進協議会」は後継者育成と未来への継承のために、従業員の民俗芸能への参加を推奨するなど企業が祭りを支援する全国的にも珍しい事業を立ち上げました。ユネスコ登録を経て、未来に残すべき貴重な資産を地域全体で支える取り組みに注目と期待が高まります。

新野高原盆踊りの会（下伊那郡阿南町新野）
和合念仏踊保存会（下伊那郡阿南町和合）
☎0260-22-2270（阿南町教育委員会）
https://mg.minami.nagano.jp/（南信州芸能ナビ）

詳しいストーリーはウェブへ

6 **8** 新野地区の商店街を会場に行われる「新野の盆踊」。享禄2（1529）年、瑞光院という寺が地区に創建された際、ゆかりのある三州振草下田（愛知県東栄町）の人々が来て祝い踊ったことが起源とされ、輪踊りは三夜を徹して行われます。**7** 17日の夜明けに瑞光院の参道で行われる神事「踊り神送り」はクライマックス。古風な行列踊り後、新盆の切子灯籠が点火されます。**9** **10**「和合の念仏踊」は、一説によると和合の開祖とされる宮下家15代が約270年前、江戸からの帰りに長野市川中島から伝えたとされます。6～7人が太鼓を打って鉦を鳴らし、ほとばしるエネルギーが見る者を圧倒します。**11**「第1回南信州民俗芸能フェスティバル」で披露された様子。笛を奏でるのは子どもたち。